情勢判断

今月の情勢　～経済･金融の動向～

米国経済･金融

3 月 13 日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、08 年 12 月から据え置く政策金利（史上最低の 0～0.25%）を少なくとも 14 年遅くまで維持する方針とともに、10 月 3 日から実施している長期国債を 4,000 億ドル買入れる一方で同 3 年以下の国債を同額売却するという「オペレーション・ツイスト」も継続するとした。

経済指標をみると、3 月の雇用統計は、失業率は 8.2%と前月から改善したものの、非農業部門雇用者数が前月比 12.0 万人と事前予測（ブルームバーグ社調査：20.5 万人）を大きく下振れた。このため、米国経済の回復ペースの鈍化に対する懸念が高まっている。

国内経済･金融

4 月 9～10 日の日銀金融政策決定会合では、政策金利の誘導目標（0～0.1%）と金融資産等買入（国債や社債、ETF、J-REIT 等の金融資産買入れ額 30 兆円、固定金利方式共通担保オペ 35 兆円、合計 65 兆円）の維持を決めた。

経済指標をみると、日銀短観（3 月調査）の大企業・製造業は▲4 と、前回（12 月調査）から横ばいとなった。6 月の見通しも▲3 と改善のペースは鈍いとみられている。その一方、機械受注（船舶・電力を除く民需）　の 2 月分は、前月比 4.8%と 2 ヶ月連続の上昇となり、1～3 月期を通じても事前見通し（前期比 2.3%）を上回る可能性が高まった。また、2 月の鉱工業生産指数（確報値）は、前月比▲1.6%と 2 ヶ月ぶりに低下したが、製造工業生産予測調査によれば、3 月は同 3.4%、4 月は▲0.3%と基調として上昇が見込まれている。このように、一部に景気踊り場からの脱却を模索する動きも散見される。

金利･株価･為替

長期金利（新発 10 年国債利回り）は、米国の景気回復期待の高まりなどから株高・債券安が進み、3 月中旬に 1.05%を超える場面もあった。しかし、その後はスペインなどで債務問題が再燃したほか、米国経済指標の予想下振れが続いたことから「質への逃避」が進み、4 月中旬には約 1 年 5 ヶ月ぶりの水準となる 0.930%まで低下した。

日経平均株価は、欧州不安の後退や円安の進行などを背景として 3 月下旬には 10,200 円台と東日本大震災後の最高値を更新する場面もあった。しかし、その後は米国経済の先行き懸念の高まりや欧州債務危機の再燃を受けて下落に転じ､4 月中旬は 9,500 円前後での推移となっている。

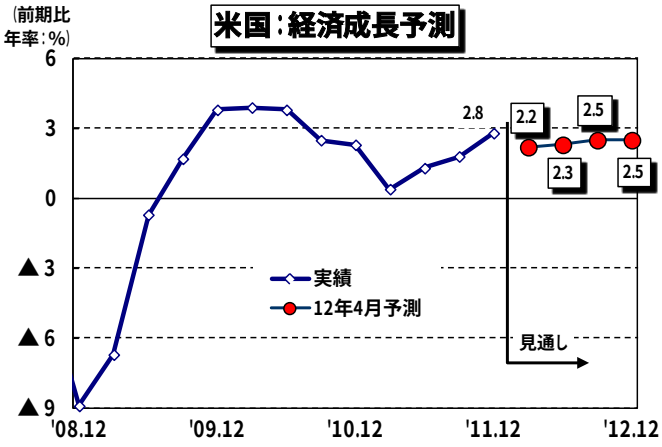
外国為替相場のドル円相場は、日銀の追加緩和の継続期待や米国経済の回復期待の高まり、日本の経常収支悪化などを受け、3 月中旬には約 11 ヶ月ぶりに一時 1 ドル＝84 円台まで円安が進んだ。しかし、その後は米国経済の減速感が高まったことから円高・ドル安に転じ、4 月中旬には 1 ドル＝81 円前後での推移となっている。ユーロ円相場は、スペイン国債入札の不調などで欧州債務危機が再燃したことから円高・ユーロ安が進み、4 月中旬には 1 ユーロ＝104 円台となる場面もあった。

原油相場

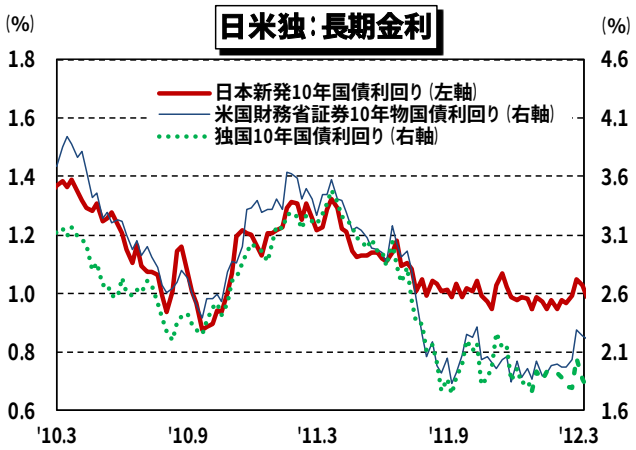
原油相場（ニューヨーク原油先物・WTI 期近）は、米国経済の回復期待の高まりなどから、3 月下旬まで 1 バレル＝100 ドル台半ばでの高止まりを続けた。しかし米国経済の減速懸念の高まりから下落に転じ、4 月中旬は 1 バレル＝100 ドル台前半で推移している。　（2012.4.20 現在）

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます

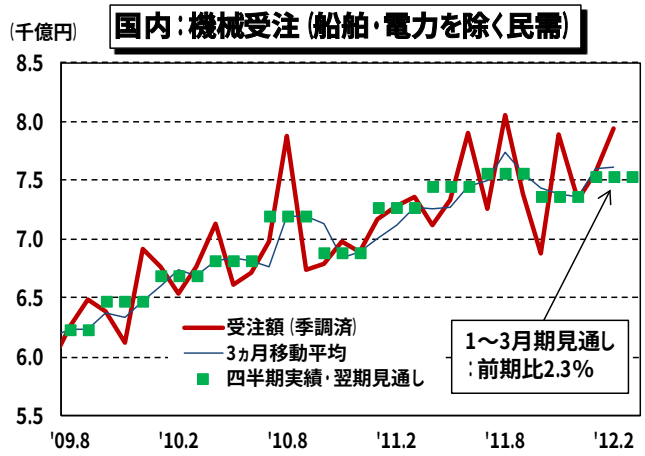
内外の経済・金融グラフ



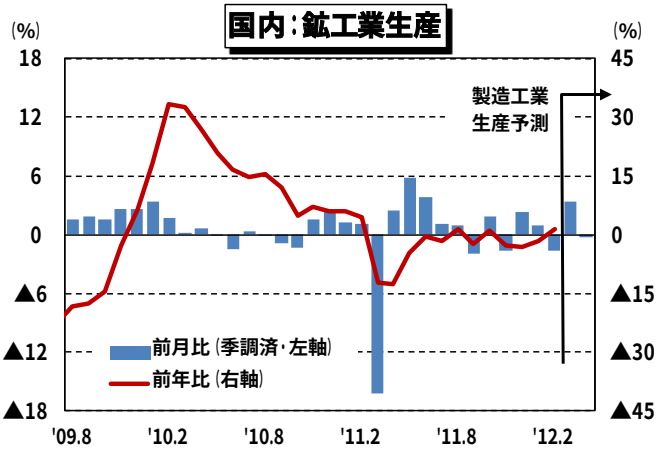
(資料) Bloomberg (米商務省) より作成。見通しはBloomberg社調査



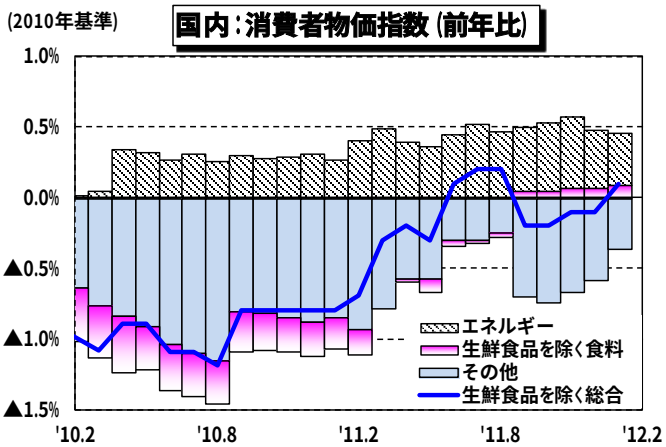
(資料) Bloombergより作成



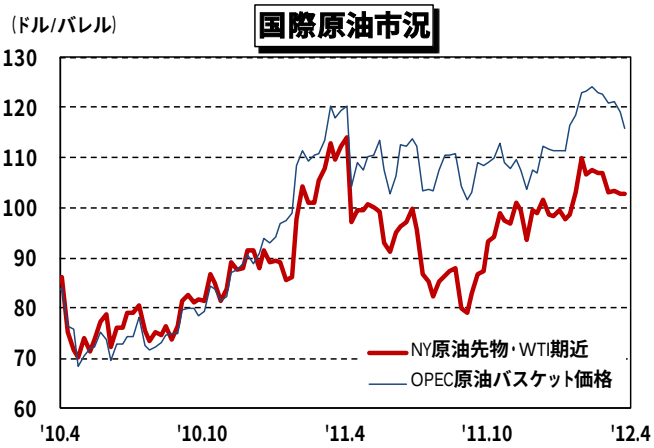
(資料) Bloomberg (内閣府「機械受注統計」) より作成



(資料) Bloomberg (経済産業省「鉱工業生産」) より作成



(資料) 日経NEEDS-FQ (総務省「消費者物価指数」) より作成



(資料) Bloombergより作成

※ 詳しくは当社ホームページ（http://www.nochuri.co.jp）の「今月の経済・金融情勢」へ

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます